

☆ 奨 励 ☆

「古城への道」 岡本 秀子

暗く控えた色調と重厚なマチエールが印象的な作品です。アーチ状の出口の先の風景は迫力もあり、リアリティーを感じますが、石畳の石1つひとつの表現に統一感が少し欠け、画面全体のバランスを崩しているのが残念です。

「赤い靴」 甫木元 美喜

落ち着いた色調で、細部までしっかり描かれた作品です。画面を構成する要素もしっかり選び、物語を作り上げています。壁に塗り込まれたレンガの配置が効果的です。

「染まる頃」 須藤 嘉彦

やや燻んだ色調がおもしろい効果を生んでいます。筆のタッチも工夫され、小川の情景が上手く表現されています。水鳥の控えた赤色が効果的です。空気感をしっかり表現した作品になっています。

「公園の一景」 坂本 明

対象を良く観察し、細部までしっかり描かれた秀作です。重ねられた色が生み出す美しい色調とマチエール。その場の空気を感じられる作品になっています。特に古木の根の部分の表現はすばらしいと思います。

「容れもの」 上村 菜々子

グレーの背景に大胆に描かれた白と黒が混ざり合った形体、見る人に強く迫って来る作品です。短い時間の作業が作品の良し悪しを決定します。エスキースの段階の試行錯誤を繰り返し、しっかり計画を立てて作業を進めることをお勧めします。

☆ 新 人 賞 ☆

「絶望の愛」 ビャンバドルジ ウレムジ オユタ

高校生が自分の思いや発想を大きな画面に描いています。未熟な表現も見受けられますが、大作にチャレンジする意欲には頭が下がります。画面を構成する要素やモチーフ選びは良いと思います。さらに描写力を鍛えて描き続けてください。